Descent of Holy Spirit Orthodox Church in Odawara

小田原・平塚正教会だより

2016年2月号

2016年2月1日発行　第161号

司祭　ディミトリイ　田中　仁一

〒250-0011 神奈川県小田原市栄町四丁目 4-1

TEL/FAX：0465-22-2792　携帯　080-5074-6363

E-mail: holyspritodawara@gmail.com

日本ハリストス正教会教団 HP: http://www.orthodoxjapan.jp/

本教会 HP: http://odawara-orthodox.com/

郵便振替口座: 00270-6-15226

「気候順和、五穀豊穣、天下泰平の為に主に祷らん」

大連祷の第七の祈願文

聖体礼儀解説(8)～大連祷その七～

この祈願文によって私たちは、主の慈愛が全ての神の創造物、空気に、大地に、そして自然そのものに満ち溢れることを願います。願わくは、神が定められた道を万物が歩みますように。私たちはこの世界を神から「祝福」として授かりました。私たちは、神の役者として、神からこの世界を治めることを託されているのです。託されたものは、それを託した方に返さなければなりません。**神に仕えるということは、この世界に「感謝」をこめて再び神に捧げること**を意味するのです。

●五旬祭後第36主日聖体礼儀・教区主催聖歌研修会

2月7日(日)　10:00～　(9:30 痛悔)

第3調　ティモフェイ前1：15-17　ルカ18：35-43

●教区主催信徒研修会「シナゴーグ・伝道の誤解」

2月18日(木)　14：00～15：30

講師：司祭コンスタンティン桝田尚師

聖歌研修会と信徒研修会の詳細は5ページをご覧ください。

●税吏とファリセイの主日聖体礼儀

2月21日(日)　10:00～　(9:30 痛悔)

第5調　ティモフェイ後3：10-15　ルカ18：10-14

記憶の継承

⇒1992年竣工した静岡ハリストス正教会信徒会館　2013年から仮聖堂として使用中。上は旧聖堂建設時の鳥瞰図。

この建物は、キリスト教教会の敷地内にある信徒会館である。

子供の頃、夏の暑い日、両親に連れられてシブシブ行った教会で、退屈な儀式をこっそりぬけだし、せみ取りに走りまわった。木の幹に背をもたせかけ、空を見上げると入道雲の湧き立つ真っ青な空の中に、ねぎ坊主形のドームの上の金色の十字架が光り、少しはげた白壁が、まぶしく僕の視線を固定する。教会の内からは、当時の僕には意味不明の讃美歌が、呪文のように響き、聞き慣れたメロディーは心地よく心にしみたものだ。

それから 50 年近くたった今日でも、教会は、そのままの姿で僕の前にあり、そして、僕の息子も僕と同じわるさを経験し、同じ風景を見て育ち、青年になっている。息子もいずれ結婚し、その子供も夏の青い空の中に同じ金色の十字架をみるだろう。

我々の社会には、変化していくものと、変化しないものがある。人生において、不変の物、言葉を変えれば、世の中の重心のような物がないと心落ち着かないのではなかろうか。それは、ある場合は宗教であろうし、建築でいえば、前述した、親子三代同じ風景をみる原体験であろう。昔の建築は、殆どが百年その生命をもち続けた。百年の時間は親子三代の歴史をきざむ。

日本は戦後、価値体系の激変により、新しい文明観を持つ時間的余裕のないまま、高度成長に入り、物質の豊かさが至上のものとなり、建築の秩序を熟成することが出来なかった。スクラップアンドビルド（scrap and build）があたり前の感覚で、建築は経済機構の中で作られてしまっている。この流れに竿さすつもりはないが、世の中の重心になる建築、悠久の時の流れの中に建ち続ける建築を、この教会の敷地に置くことが大切であると、計画の初期段階で考えた。そのような建築とは何だろう。答えは簡単であった。皆が見慣れたような気持になる。

建物、キリスト教建築が昔から感じられる空間の質（祈り・瞑想の空間）、それらの持っている古来からの様式を、一度解体させ、現代の技術で再構築させればよろしい。具体的用表現としては、銅版葺ドーム屋根であり、交叉ボールド天上であり、アーチであり、祈りの祭壇である。木は人にやさしく、音をやわらかにし、そして気持ちを穏やかにさせる。柱梁と壁はどうしても木を使いたかった（それは百年もつ木でなければならない）。空間スケールを支えるため、大断面集成材を使用し、それに、素朴な形で鉄とコンクリートを加味して、空間を引締めた。完成建物の中に入って思うことは、なんでもない建物をなんでもなく造ることのむずかしであった。

1992 年記：レオ 近藤 一郎（2008 年永眠）

最近の出来事・消息

小田原　**新年感謝祈祷**　1 月 1 日(金)午前11時、2016年新年感謝祈祷が開始しました。新しい年を迎えられたことを感謝するため、25 名が参祷しました。新年の感謝と神様からの祝福を賜る祈願の祈りの中では参祷者一人一人の名前が挙げられました。祈祷後は白玉ぜんざいがふるまわれ、冬晴の空の下で新年のあいさつを交わしながら頂きました。また 1 月 3 日は新年聖体礼儀が行われました。

神現祭聖体礼儀　1 月 16 日(土)午後 5 時から神現祭前晩徹夜祷を行い、翌日 17 日(日)午前 10 時より神現祭聖体礼儀が行われました。旧暦の教会歴1月19 日、また新暦の教会歴では1月6日祝われる祭りですが、小田原の聖堂では私たちの使用する旧暦の暦より2日前倒しで行いました。聖体礼儀に引き続いて大聖水式を行いました。大成聖式では、水を頂く人や持ち物がその水を通じて神様に祝福されるよう司祭をはじめ参祷者によって熱心に祈られました。聖水は祈祷後各自家に持ち帰りました。中には広島や青森からも聖水を入れる容器が小田原まで届きました。昼食も新年の挨拶も兼ねて、お祝いの食事をしました。差入れやお菓子も賜りました。神現祭は十二大祭のうちでも歴史的に早い時期から祝われ、今から1700 年前にはすでに現在とほぼ同じ祈祷がなされていたと言われています。伝統的正教国では降誕祭から始まりこの神現祭で締めくくるこの年末年始の期間を冬の祭典期としています。

柏久保　新年感謝祈祷　1 月 9 日(土)18 時から、新年感謝祈祷が行われました。5名の信徒が集い新年を迎えたことへの感謝と、新年が神の恩寵豊かな年になるよう祈りました。参祷を願っていても教会に来ることができない、怪我や病にある信徒をはじめ、柏久保教会の信徒一人ひとりのためにも併せて祈祷しました。祈祷後はみなさんで持ち寄って下さった軽食を囲んで新年の挨拶と懇談の時間を持ちました。

静岡　**聖体礼儀・大聖水式**　1 月 24(土) は午後 5 時から晩課、25 日(日)は午前 9 時 30 分時から聖体礼儀を行いました。晩祷後、職場から駆け付けた誦経担当の近藤正美兄が、誦経カ所の行い方の確認に来られました。信徒の方々少しずつ聖務に関わって下さっていることに心より感謝申し上げます。聖体礼儀に続いて大聖水式・月例パニヒダが行われました。そしてさっそく、出来たばかりの聖水を用いて、昼食後、旧生神女庇護聖堂にて聖不朽体を仮聖堂へ移す祈祷が行われました。すでにイコンが取り外されたイコノスタシス

の内壁を見て、それが本当にブロックの単純な縦積みであったのを目の当たりにし、「本当にこれまでよく保ってこられた、信じられない…」という声が聞えました。祈祷の中では旧聖堂をこれまで庇護してくださった生神女に「生神女庇護」のトロパリが捧げられました。司祭からは涙ながらに、この聖堂への信徒の思いがいかほどであるか、それでも未来進み続ける心を持ち続けようとの話がありました。

不朽体取出しの祝文を唱える司祭

役員会兼建設委員会進捗報告 1 月 24 日（日）、一通りの祈祷が終了した後、役員会兼建設委員会が行われました。12 月 14 日に地盤調査が無事終了したこと、1 月 12 日に修復するイコン約 10 点の搬出が無事終了したことが報告されました。また今後のイコン修復・保護の目的を再確認し、26 日 NPO 法人美術保存修復センター横浜へ打ち合わせに行きます。イコンが一般の美術品と違うことと、また道具として長く使用されていくことをセンターに伝え、修復に関する詳細を決定します。2 月に始める旧聖堂の取り壊し業者の選定について、また工事期間の貸し駐車場の対処方法について話し合われました。最後に建築担当者より、これまで構想に費やす時間が予定より長引いたため、11 月末を予定した新聖堂の成聖式が 2 月に延期するとの報告がされました。また司祭からも、ダニイル府主教様より「焦らずしっかりやりなさい」との助言を頂いた旨を報告しました。また今後、聖堂内で使用する布類の縫製のために婦人会の協力をお願いしました。

修善寺 **聖体礼儀** 1 月 10 日（日）五旬祭後第32主日聖体礼儀が行われました。年が明けて初めての集いとなり、新年のあいさつを行いました。冷え切った聖堂の中で祈祷を行いましたが、マクリナ野田典子姉より昼食に味噌汁の差し入れがあり、皆で温まりました。昼食後、イオアン山田執事長より木の剪定が一部終了したことが報告されました。これは観光バスが通る道路に面した大木が重さで倒れかけていたもので、一昨年のような大雪が降ったら危険だろうと懸念していたためです。残りは順次剪定を行っていく予定です。

平塚 **新年感謝祈祷** 1 月 1 日（金）に2016年新年感謝祈祷を小田原の聖堂にて合同で行いました。次回の集会は 20 日 10 時より、渡辺万千子姉宅にて地区集会を行います。また 2 月 7 日の聖歌研修会も小田原と合同で行いますので、奮ってご参加ください。詳細はP5。

永遠の記憶 **長司祭イオアン釜谷幹夫師（65 歳・秋田県　北鹿教会）**が永眠され、1 月 30 日（木）・31 日（金）、奉職されていた曲田（まがた）福音会堂にて埋葬式を行いました。永遠の記憶をお祈り申し上げます。

永遠の記憶 **アントニイ木村浩兄（79 歳・修善寺教会）**が永眠され、1 月 18 日（月）・19 日（火）、JA なんすん葬祭ホール天翔苑（駿東郡清水町）にて行いました。永遠の記憶をお祈り申し上げます。

献金報告

12/20 現在　日付は会計処理日です。ありがとうございました。

日付	氏　　名	摘　　要
12/27	廣石　利恵姉	降誕祭献金
	廣石　朗兄	降誕祭献金
	廣石　フミ子姉	降誕祭献金
	平塚ハリストス正教会	降誕祭献金
	山本　久子姉	降誕祭献金
	阿久津　八重子姉	降誕祭献金
	木下 アナマリア姉	降誕祭献金
	神保　泉姉	降誕祭献金
	マリア　カポニ姉	降誕祭献金
	松浦 清博首輔祭様	会報献金
	山口　文雄兄	降誕祭献金
	飯田　真由美姉	降誕祭献金
	上野　未来兄	降誕祭献金
	上野　ひろ子姉	降誕祭献金
	上野　攻兄	降誕祭献金
	上野　敬子姉	降誕祭献金
	神谷　忠明執事長	降誕祭献金
	土居　勇典　兄	降誕祭献金

日付	氏　　名	摘　　要
12/27	松田　亨兄	降誕祭献金
	岡野　康子姉	降誕祭献金
	内藤　直樹兄	降誕祭献金
	廣石　真太郎兄	降誕祭献金
	松川　ゑみ姉	降誕祭献金
	村松　伸子様	降誕祭献金
	安達　紀彦兄	降誕祭献金
	竹林　多恵子姉	降誕祭献金
	神谷　武夫兄	降誕祭献金
1/3	廣石　太郎兄	降誕祭献金
	セルギィゴロバチョフ兄	降誕祭献金
	川辺　康弘兄	降誕祭献金
	佐藤　芳邦様	感謝献金
	鵜沢　修一副輔祭様	会報献金

婦人会献金：今月はありません。

※紙面に献金額を掲載しなくてよいのですか、というお問い合わせがありました。献金を受領した際に、領収書または献金袋にて領収金額を確認して頂いております。それぞれの方からの献金を有り難く賜っております。

東京大主教教区主催

聖歌研修会

講師：リュボフ田中博子姉（横浜教会）

日時：2016 年 2 月 7 日（日）

聖体礼儀後

場所：小田原ハリストス正教会　信徒会館

参加費：無料

聖歌は全て祈りの言葉。聖歌は私達が教会で行う祈祷の大切な一部です。聖歌研修会は、より聖歌の役目と歌い方を理解するため実践を交えて行っています。皆さまのご参加をお待ちしています。

東京大主教教区主催信徒研修会

「シナゴーグ・伝道の誤解」

講師：司祭コンスタンティン桝田尚師

日時：2016 年 2 月 18 日（木）

午後 2 時～午後 3 時 30 分（予定）

場所：小田原ハリストス正教会　信徒会館

参加費：無料

今年は主教区主催の信徒研修会を小田原でも開催いたします。旧約聖書の時代から正教会へと受け継がれる伝統のキーとなる「シナゴーグ」について、山手ハリストス正教会の司祭、コンスタンティン桝田神父様からご講話いただきます。なかなか聞く機会のないお話しです。ふるってご参加ください。

【2016年2月】小田原・平塚ハリストス正教会月間活動予定表

日	曜日	祈祷・行事・集会	堂役	主日調/聖書の読み
1	月			2/7　調:3調 使徒経:ティモ前1:15-17 福音経:ルカ18:35-43 ●婦人会昼食当番 皆で協力して行いましょう
2	火	[家庭訪問(平塚)]		
3	水		山口(幸)	
4	木			
5	金	[東京　神学校]		
6	土	**主日前晩徹夜祷(17:00)**		
7	日	**五旬祭後第36主日聖体礼儀(10:00)・教区主催聖歌研修会**	神谷(幸)	
8	月	[静岡]		2/14　調:4調 使徒経:ティモ前4:9-15 福音経:ルカ19:1-10 ●婦人会昼食当番 皆で協力して行いましょう
9	火			
10	水	[船舶成聖(横須賀)]		
11	木	[教区代表者会議(東京)]　祝日		
12	金	[東京　神学校]		
13	土	[柏久保巡回]		
14	日	ザクヘイ(ザアカイ)の主日代式祈祷(10:00)　・聖堂清掃　[修善寺巡回]	神谷(幸)	
15	月	[静岡]　主の迎接祭(十二大祭)		2/21　調:5調 使徒経:ティモ後3:10-15 福音経:ルカ18:10-14 ●婦人会昼食当番 皆で協力して行いましょう ●糖飯:廣石　末子姉
16	火			
17	水	[家庭訪問 (藤沢)]		
18	木	**教区信徒研修会　(小田原14:00)**		
19	金	[東京　神学校]		
20	土	**平塚地区集会(10:00) 主日前晩徹夜祷(17:00)**		
21	日	**税吏とファリセイの主日聖体礼儀(10:00)・月例パニヒダ　聖書講話・聖歌練習**	山口(幸)	
22	月			2/28　調:6調 使徒経:コリンフ前6:12-20 福音経:ルカ15:11-32 ●婦人会昼食当番 皆で協力して行いましょう
23	火			
24	水			
25	木			
26	金	[東京　神学校・理事会]		
27	土	[静岡]		
28	日	放蕩息子の主日代式祈祷(10:00)・会館 / 駐車場清掃	山口(幸)	
29	月			

[　　]内は司祭の活動

＊聖体礼儀に参祷し領聖するときは、前日から十分に節制しましょう＊

＊ここには主日の聖書の読みが記載されています。お手持ちの聖書を読むときに活用して下さい。＊

２月の永眠者一覧(敬省略)

永眠日	聖名	氏名	永眠年	縁故者
１日	シモン	渡辺　　正	１９９６年	渡辺 万千子
１日	オリガ	廣石　利子	２０１１年	廣石　卓也
２日	ミロン	廣石 清四郎	１９７６年	廣石　利恵
３日	エレナ	小杉 けさお	１９３４年	小杉　英男
５日	イアコフ	小島　　憲	１９４４年	山口　　晃
６日	マリヤ	廣石　君子	１９９１年	廣石家
９日	ハリテナ	窪田　スズ	１９９４年	窪田　幸夫
１１日	イウニヤ	廣石　ワカ	１９８３年	廣石　利恵
１２日	イオアン	神谷　政久	１９８８年	神谷　幸夫
１５日	パウエル	中村　秀雄	１９８４年	中村 美枝子
１７日	イオアン	廣石　辰男	２００８年	廣石　末子
２０日	ペトル	加藤角次郎	１９５８年	加藤　　宏
２１日	イリナ	加藤　屯子	１９９５年	加藤　　宏
２３日	マリヤ	中島　静江	１９１９年	中島 八千代
２３日	パウエル	上野　　貞	１９６３年	上野　攻
２３日	ペトル	紺野　雅幸	１９２３年	紺野　雅章
２３日	ルキヤ	廣石ルキヤ	１９３８年	廣石　利恵
２４日	アンドレイ	中島　浅吉	１９５７年	中島 八千代
２６日	ソフィヤ	中島千代子	１９６２年	岡野　康子
２７日	アキラ	日比野　彰	１９９４年	日比野　馨
２７日	イリヤ	小杉源 左衛門	１９２１年	小杉　英男
２８日	マリヤ	津田　千代枝	１９９１年	津田家

今月は第３週日曜日に永眠者の記憶を祈る「パニヒダ」を行います。聖堂は皆さんのお祈りの場、そして皆さんの霊(たましい)が永遠に養われる場です。ローソクを灯して少しの間、ご家族のために祈りに来られるだけでも大変結構です。どうぞ遠慮なさらずお越しください。(月例パニヒダの日は必ず会報をご確認ください。)

新装 正教会訳「新約」・改訂版「主日奉事式」

特徴

- 文字が格段と見易く。
- 上質な薄手用紙の使用で従来とほぼ同じ大きさ。
- 表紙は明るいクリーム色。

価格　1,500 円

特徴

- 従来の「主日奉事式」に比べて、1.53 倍内容が充実。
- 表紙は落ち着いた紺色。
- 祈祷の言葉を追いながら参祷できます。

価格　1,300 円

お求めは、教会又は管轄司祭まで

エジプトの克肖者聖マカリイ

聖記憶日１月19日/2月1日（新暦）

エジプトの克肖者聖マカリイは西暦 331 年頃、エジプトのプティナポル村に生まれた。両親の勧めによって結婚したものの、妻はまもなく亡くなってしまった。埋葬を終えたとき、彼は心の中こう思った。「忘れるな、マカリイ。お前は自分の霊を大切にしなければならない。世間から離れていることは自分に適っているはずだ。」その後、彼は祈りのため教会へ行くようになった。彼の両親が亡くなった後は、どのようにしたら人が救いに導かれるのかを求めるために更に熱心に祈った。神はそれに応えるように、聖マカリイを霊性豊かな老師に会わせた。この老師は村からほど遠くない砂漠で修道を行っていた。老師は彼を受け入れ、老師の住居から少し離れたところに庵を建てて、彼を住まわせ、霊の救いについて、また節制や祈りの方法などを指導した。

ある時アレクサンドリアの主教がプティナポル村を訪れると、崇高な生活を送っている修道士マカリイのことを知ったので、すぐさま彼を引き出して彼の意を問わずに輔祭に立てた。しかし、聖マカリイはその職の喧噪さに圧倒され、密かにどこかへ行ってしまった。そこで静かな祈りの生活をしようとするが、世間は彼を追いかけ、修道に集中しようとする彼を放っておかなかった。聖マカリイは十字を切りながらそれに耐えていた。悪意を持った人々はそれを嫉妬し、聖マカリイに虚偽の罪を着せた。それは聖マカリイが村の近くの一人の女を誘った、というものだった。彼はそのような噂を耐え凌ぎ、いつしかその女の家族を痛悔に導いた。

悪は聖マカリイを貶めようとこのような方法を何度も試みたがそれが出来なかった。ある時、聖マカリイが油やしの木をとりに出かけると、そこでついに悪魔と出会う。その時悪魔はこう言った。「マカリイよ、お前のために私はどれだけ苦しんだことか。いろんな手を打ったのにお前が私の手に堕ちないからだよ。お前は節制を守り、必ず夜に祈る。お前の謙遜が私を勝たせないのだよ。」

修道に専念する聖マカリイは 40 歳になると、自ら人里へ戻って司祭職に叙聖され、砂漠に住む修道士の指導をした。彼自身も聖アントニイとの対話を通じて霊的学びを続けた。人々も彼を慕い、聖マカリイも必要に応じて、人々に癒しや祈りの指導を施した。聖マカリイの霊的指導の主旨は次の通りである。「救いは、いかに寛く聖なる真理と愛を、受容できる心を養うか関わっている。私たち一人一人が聖神の賜物を得ることができるが、それには私たちの心にその準備が出来ているかどうか、である。私たちが永遠の生命を継ぐのは他でもなく、ただ神の憐みと真実によるからである。」

彼の物語は多く残されている。聖マカリイの言行録は今も書物に記録されている。彼の聖不朽体は現在、イタリアのアマルフィに安置されている。

トロパリ（第一調）：捧神なる神父マカリイよ、爾は砂漠の居住者、身体を有つ天使として顕れて、節制と徹夜の祈祷に因りて天の賜物を領け、病者と信を以て爾に趨りつく者の心を癒し給う。光栄は爾に力を賜いし主に帰し、光栄は汝に榮冠を授けし主に帰し、光栄は爾に因りて衆人を癒せし主に帰す。

※トロパリはギリシア語からの翻訳です。